



近藤 大介 議員

# 価値観の画一化にならないか

教育長

## 押し付けず適切な評価に努める



教科化で「道徳性」が評価されることに

【近藤】昨年、小学校で道徳の教科化が始まり、今年度からは中学校でも同様に始まった。教科化の目的は、【教育長】これまででは、学校行事などにすり替えられたり、形式的な指導であったり、多くの課題が指摘されていた。

これらの課題の解消とともに、いじめ問題への対応など、指導方法の改善をはかることを目的としている。

【近藤】子どもの道徳性を評価することで、価値観の画一化につながる恐れはないか。

【教育長】価値観の押し付けではなく、児童生徒がどれだけ成長したかという視点で、適切な評価となるよう努めている。

【近藤】教科化になったことで教員の負担が増えているか。

【教育長】負担は増えているが、道徳教育は全教職員がかかわり進めていくことが学習指導要領に明記されている。指導方法などの研修を行いながら、先生たちの負担軽減にも取り組んでいきたい。

【近藤】竹口町長になって、議会にも説明がないまま、定員適正化計画がないがしろにされ、職員の大量採用が続いている。職員採用は計画的にやってもらいたい。

【町長】20年先のことより、数年先の精度の高い見通しを立ててやっていくほうが重要だ。

【近藤】本町の人口は、20年後に1万人と推計されている。人件費を抑制する計画は。

【町長】今後の見通しを検討し、人件費全体を考え採用していく。第5次行財政改革審議会の答申も考慮する。

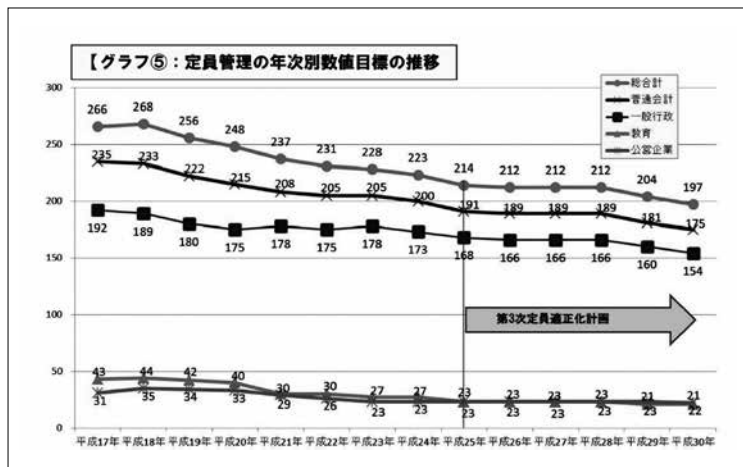
【近藤】計画的な職員採用についての方針は。

町長

## 町長がコントロールする

# 職員採用は計画的に

【町長】組織を運営していく責任は私にある。職員の数だとか、財政状況をどうしていくかは、民間企業でいえば社長に当たる町長がコントロールすべき事項だ。議決事項になっていないことは、組織経営の中のプロセスとして、内部計画に沿って今後もやっていきたい。



現在の職員数は210人（計画値：193人）